

第7章 海外の事例

1 中部ヨーロッパの地域暖房システム

ヨーロッパのいくつかの町では木のチップやペレットをボイラーで燃やした温湯による暖房システムがみられます。

(1) ペレット一家の暖房

たとえば1軒の家で単独に使用する規模では、チップを燃やすより、小型のペレットや伝統的な薪を燃やす暖房方式が多くみられます。



イタリアの自動点火式ペレットストーブ

(2) チップー学校の暖房

イギリスやスイスでは学校の暖房にチップを用いている例があります。イギリスではバイオマス生産量が多く、刈り取り、再生の容易なヤナギ林をそのために作っています。

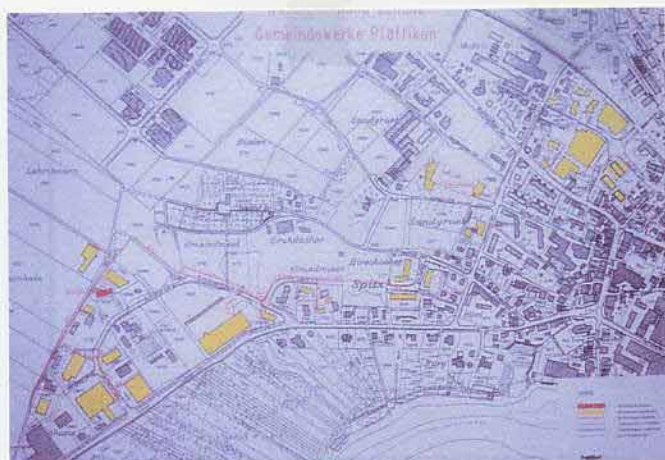
スイスの農学校では、校舎の暖房にチップを利用しますが、生じた木灰をぶどう畑に肥料として用いるなどの多面的な利用が行われています。



イギリスヘレフォード県 ウエオブリー小学校の暖房事例 正面はボイラー室、左は校舎

(3) チップと古家具ー地域の暖房

ドイツバイエルン州では、大型工場を作り、15,000世帯に暖房用の熱水を供給しています。



スイスプフェヒコン町の温水配管図



ドイツバイエルン州ケンプテンの熱水工場